



大相撲

鶴竜関が見舞う モンゴルから難病赤ちゃん、手術成功 /東京

毎日新聞 2018年7月29日 地方版

モンゴル出身の横綱・鶴竜関が27日、難病の手術のためにモンゴルから来た生後2カ月の赤ちゃんを見舞い、家族らを元気づけた。

赤ちゃんは元小結・白馬関の従弟で、ウランバートル在住の自営業、バトツォージさん（33）の長女、ツェインちゃん。生後間もなく心臓に疾患が見つかったが、国内での治療が困難なため、白馬関らを頼って来日し、昭和大学病院（品川区）で手術を受けることになった。執刀した小児心臓血管外科の宮原義典・診療科長によると「かなり深刻な状況だったが、術後の回復も順調。来週には帰国できるだろう」という。

同院によると、経済的な負担が大きい日本での治療をあきらめる外国人患者は多いという。この話を聞いた鶴竜関は「ぜひ、直接会って元気づけたい」と訪問した。

「2人の子供がいるので、人ごとではない。受け入れてくれた病院にも感謝したい。これも相撲が結んでくれた両国の縁」と鶴竜関。名古屋場所は右肘関節炎のため途中休場したが「順調に回復しています。夏巡業を乗り切って万全の状態です。秋場所に臨みたい」と語った。

【森忠彦】

〔都内版〕

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.